



ひゅーまんらいつ

第45号 平成16(2004)年7月

未来に向かって よりよい関係を築くために

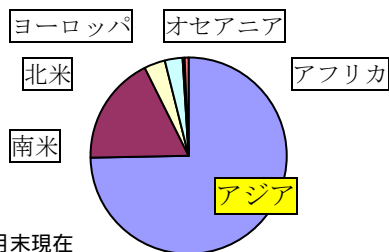
情報やモノが国境を越え行きかう国際化の時代を迎え、米子市にも多くの外国籍の人々が生活し、そして活躍をしております。

出身国も、来られた理由も様々な人々のことを、もっと知ってみませんか？

あ あなたは、「外国籍者・外国人」と聞いて、どのような方を思い浮かべますか？

アメリカやヨーロッパの人々ですか？アフリカの人々ですか？それともアジアの人々ですか？

日本の外国人登録の出身地別割合



平成12年3月末現在

上のグラフのように、日本で生活している外国籍者の実に3/4は、アジアの人々です。日本は、アジアの一員ですから、当然といえば当然といえます。

一方、米子市には約1200人の外国籍者がいますが、その人々の主な国籍は次のようになっています。(平成15年3月末)

韓国・朝鮮	613人
中国	218人
フィリピン	178人
タイ	43人

このように米子市にいる外国籍者の約半数は、韓国・朝鮮籍の方々（在日コリアン）です。

いちばん身近な存在として

日本は韓国に対し、1910年「日韓併合」を行い植民地政策を進めました。創氏改名、兵役、連行などを行った結果、終戦の1945年には約200万人もの朝鮮籍の人々が日本におられました。

戦後、その多くは祖国に帰りましたが、様々な理由により日本に残った人々が約60万人おられ、現在では、新たに来日された人を含め約48万人の在日コリアンが日本で暮らしています。

しかし、約9割の方は日本名を名乗り、社会生活において民族を明らかにされていません。それは、日本社会に今なお、根強い差別意識があり、就職、住宅入居、結婚などで厳しい差別の現実があるからです。そして、差別から逃れるために日本国籍を取得（帰化）する人も多くいます。

日本社会ある差別意識は、植民地支配のなかで生まれた「自分たちより劣っている」という意識を、戦後60年近く経っても引きずっているからです。交流が進んだ今こそ、私たちの意識を変えていく大きなチャンスではないでしょうか。

在日コリアンの存在は、日本が多文化・多民族国家になるための象徴です。日本が、民族名を堂々と名乗れる社会に変わっていかなければ、他の民族・文化を受け入れ、認め合う国際社会で生き残ることはできないでしょう。



ことばが"つなく" 文字が"つなく" 心をつなく

～識字・日本語教室から～

8月17日の「部落解放鳥取県研究集会」で発表します。

米子市に住んでいる外国籍者のうち、近年多くなっているのが、フィリピン、タイの人々です。

日本に来られた理由は、留学、仕事、結婚など様々ですが、日本で生活をされるようになったフィリピン、タイ出身の女性が、日本人男性と結婚をし、家庭のなかで子どもとともに暮らされている場合が多くなってきました。

しかし、日本語の読み書きができないため、例えば、子どもが保育園や学校から持って帰ってきた文書が読めない、学校や家庭での意思疎通がうまくいかない、自分の思いが伝えられない、表現できないなど、日常生活はもとより子どもの教育のうえでも、大きく、そして切実な問題を抱えておられる現実があります。

そこで米子市では、隣保館への相談をきっかけに「識字・日本語教室」を開き、日本語の読み書

きの勉強、習字の練習などを通じて、この日本で、そして米子で、生き生きと生活してもらえるようサポートをしています。

これらの取り組みについては、8月17日（火）～18日（水）に米子市を中心に開催される「第29回部落解放鳥取県研究集会」で、米子市人権政策課の坂田かおりさんが特別報告として発表します。

皆さまどうぞご参加ください。

第29回部落解放鳥取県研究集会

8月17日（火）全体会

10時～12時 基調提案・特別報告

13時～16時 講演・人権劇

米子コンベンションセンター ビッグシップ

8月18日（水）分科会 9時45分～

米子コンベンションセンター他

- 参加資料代として2500円が必要です。
- 会場周辺には駐車場がありませんので、ご注意ください。

■集会についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

開催地実行委員会

米子市人権政策課内 ☎ (0859) 23-5415



「私以上でもなく、
私以下でもない私」

バクキョウナム
朴慶南 著

(2003年 岩波書店
1,700円+税)

著者の朴さんは、現在、神奈川県在住ですが、米子市生まれの鳥取市育ちで、本書には山陰の話題もたくさんでてきます。

難しいけれど、大切なこと、大切なのに、忘れがちなことを、わかりやすく語りかける珠玉のエッセイの数々に、生きる力、明日への希望がムクムクと湧いてくること間違いなし！の一冊です。

「ありのままの自分」であればいい！

どんな時も、どんな人も「水平の視線」を保つことの大切さを説く著者が、不安で息苦しいいまの世の中であって、どう生きていけばいいのかを、具体的に綴っています。

☆人権情報センターには、この他にも様々な書籍・ビデオ・学習資料を揃え、貸出しをしています。



米子市人権情報センター（人権政策課内）

URL : <http://yonago-city.jp/jinken/>

米子市東町161-2 ☎0859-37-3183 Fax0859-37-3184

